

Corporate Profile



古河電工グループの価値観

創業者の思い

古河グループの創業者である古河市兵衛は、「日本を明るくしたい」という思いのもと、

従業員を大切にせよ
お客様を大切にせよ
新技術を大切にせよ
そして、
社会に役立つことをせよ

と語っていました。当社は、この言葉をDNAとして大切に紡ぎ、1884年の創業以来邁進してきました。「3つの大切」をしっかりと受け継ぎ、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



創業者 古河市兵衛

古河電工グループ理念

基本理念

世紀を超えて培ってきた素材力を核として、
絶え間ない技術革新により、
真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

経営理念

私たち古河電工グループは、人と地球の未来を見据えながら、

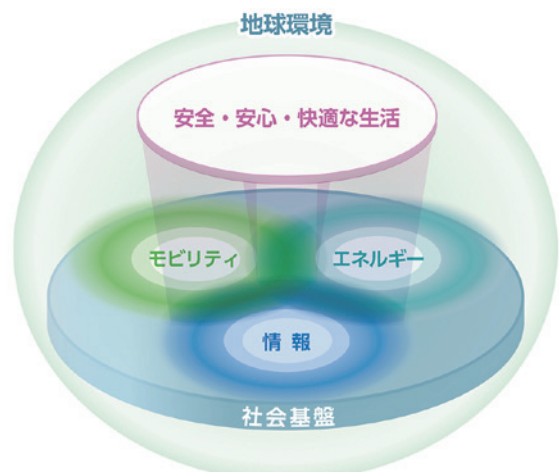
- 公正と誠実を基本に、常に社会の期待と信頼に応え続けます。
- お客様の満足のためにグループの知恵を結集し、お客様とともに成長します。
- 世界をリードする技術革新と、あらゆる企業活動における変革に絶えず挑戦します。
- 多様な人材を活かし、創造的で活力あふれる企業グループを目指します。

Core Value (コア・バリュー)



古河電工グループ ビジョン2030

古河電工グループは「地球環境を守り」
「安全・安心・快適な生活を実現する」ため、
情報/エネルギー/モビリティが融合した社会基盤を創る。



中期経営計画 2022 ～ 2025 と 2030 年のありたい姿

古河電工グループは、2025年度を最終年度とした中期経営計画を策定しました。本中計では、古河電工グループ ビジョン2030の達成に向け、「資本効率重視による既存事業の収益最大化」および「開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備」を推進していきます。

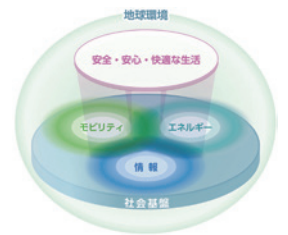
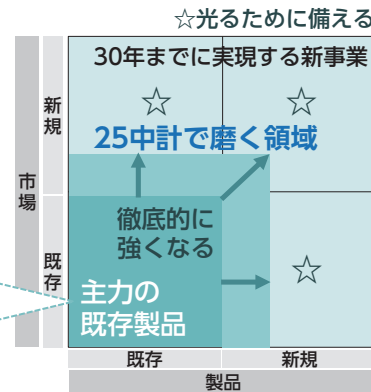


Forward-looking

2025年に向けた資本効率重視による既存事業の収益最大化

2030年までに実現する新事業創出に向けた基盤整備

Backcasting



古河電工グループ ビジョン2030

2025年にめざす姿

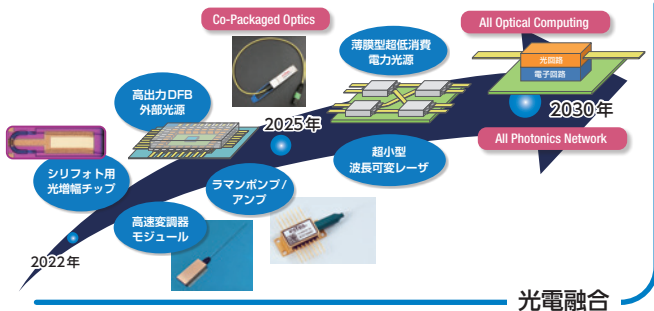
社会課題解決型事業の強化による成長の実現

2030年のありたい姿

社会課題解決型事業の創出による飛躍

情報

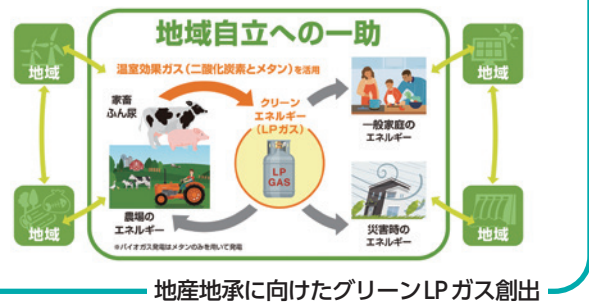
Beyond5G社会の実現 フォトニクス技術で支え社会基盤を構築



光電融合

エネルギー

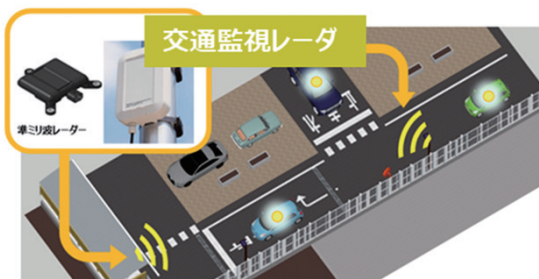
カーボンニュートラルの実現 豊富な経験と技術力で、インフラ強化と資源循環型社会を実現



地産地承に向けたグリーンLPガス創出

モビリティ

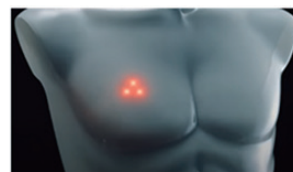
移動の自由の享受 部品、システム、アプリケーションの提供で安全/安心な移動を実現



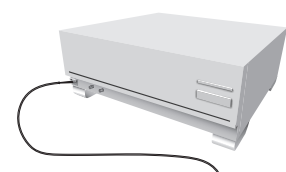
次世代まちづくり

新領域

安全/安心への社会要請 フォトニクス技術の応用により、医療水準の向上に貢献



TELLUMINO 体内医療機器位置検知ソリューション



レーザーアブレーション

ライフサイエンス

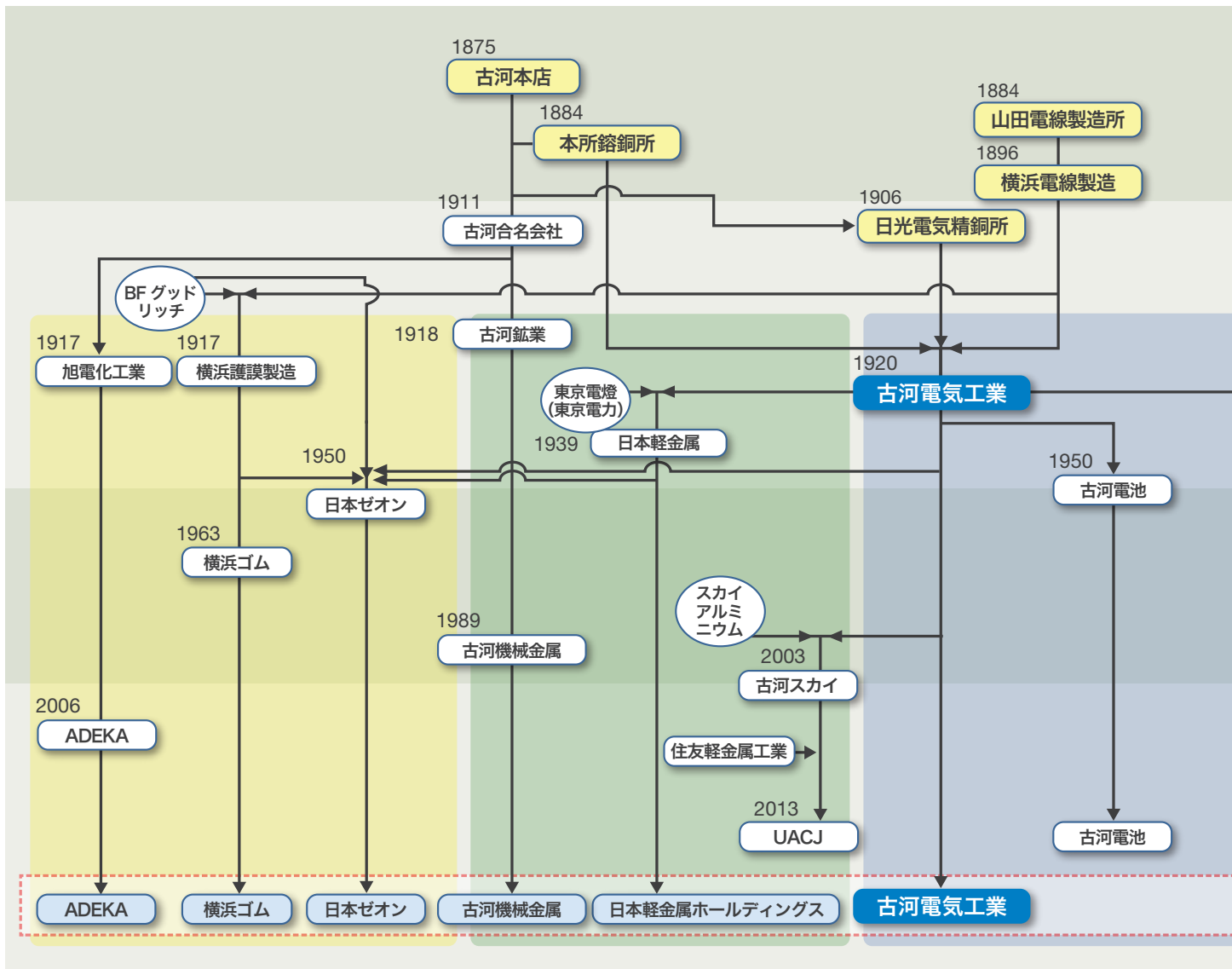
※上記は各領域における事業創出の一例

サーキュラー・エコノミーの実現

古河グループ主要企業沿革

古河グループ

古河グループは、現在、メンバー会社51社をもって任意団体の古河三水会を構成し、10社の理事会社を中核として



古河三水会 理事会社 10社

古河電工の歩み



本所鑄銅所、山田電線製造所の開設。伸銅品と電線のメーカーとして創業

1884



電気銅線製造を開始

1889

日本初の電気分銅の試験操業を開始



対馬海峡に世界初の無装荷搬送海底ケーブルを敷設

1915

日本初の海底電線を製造



全自動高精度6段圧延機を開発

1937

東京タワーにアンテナ・給電線を設置



全自動高精度6段圧延機を開発

1958

タイ・バンコク市内の通信網を整備



ブラジルにアルミ電力ケーブル製造販売会社を設立

1964

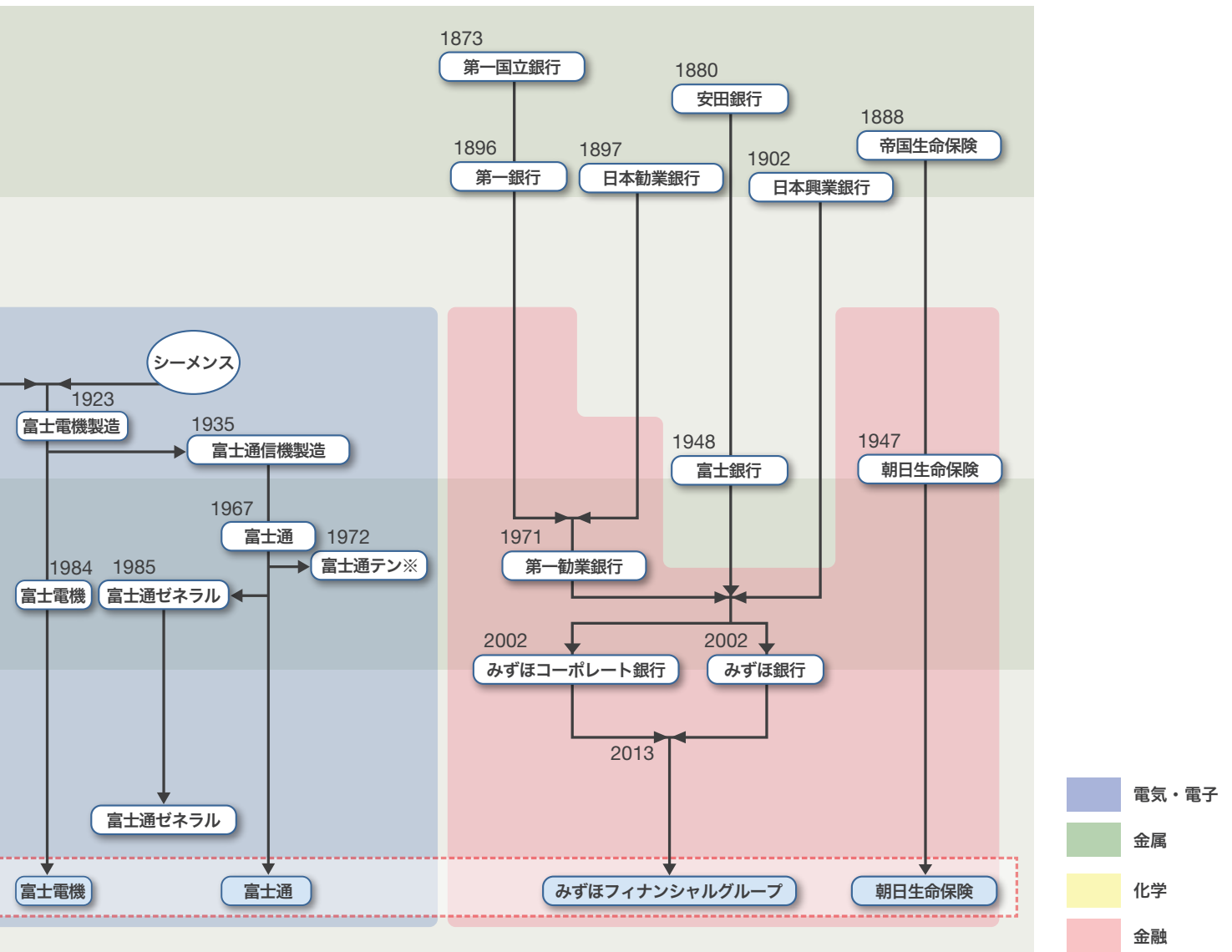
世界初光ファイバケーブルのフィールド試験に成功



1971

1974

グループ各社相互間の緊密なる協調を図り、それぞれの企業活動の強化促進に努めています。



※ 2017年に社名変更（現 株式会社デンソーテン）



ルーセントテクノロジー社の光ファイバ部門 (OFS) 買収により、グローバルネットワーク構築に貢献



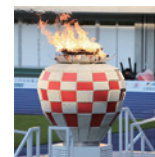
米国高温超電導線材製造会社 SuperPower 社を買収



「浮体式洋上風力プラント用超高压ダイナミック海底ケーブル」開発業務を受注



Blue-IRハイブリッドレーザ「BRACE®」販売開始



「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」の炬火台用燃料として、バイオガスを原料とするグリーンLPガスを提供

2000

2001

2003

2011

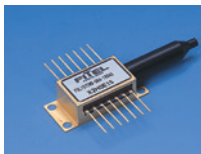
2018

2019

2020

2022

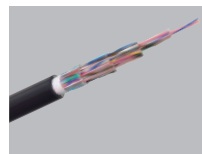
波長多重技術による大容量通信の整備に貢献
(1480nm帯域助起光源レーザ量産)



欧州合同原子核研究機構より超電導線材で特別賞受賞



世界最高水準のコア密度、細径超多心光ファイバケーブルを開発



シリコンパレーに研究拠点を開設



高温超電導線材を英国トカマクエナジー社の先進的小型核融合炉開発機 (ST-80) に納入開始



©トカマクエナジー社

「古河電工の歩み」はこちら⇒

<https://www.furukawa.co.jp/company/history/innovation/>



古河電工グループ



連結従業員数

51,314名

(2023年3月末)



グループ会社数

127社^{※1}

(2023年3月末)



連結売上高

10,663億円^{※2}

(2023年3月期)

北米・中米

連結従業員数

5,137名

グループ会社数

13社

連結売上高

1,278億円

米国

メキシコ

コロンビア

ブラジル

アルゼンチン

南米・欧州^他

連結従業員数

3,295名

グループ会社数

20社

連結売上高

919億円

デンマーク

ロシア

イギリス

ドイツ

チェコ

ハンガリー

スペイン

イタリア

モロッコ

中国

連結従業員数

4,180名

グループ会社数

19社

連結売上高

1,043億円

インド

中国

日本

ベトナム

台湾

タイ

フィリピン

マレーシア

シンガポール

インドネシア

日本

連結従業員数

10,502名

グループ会社数

41社

連結売上高

5,174億円

アジア

(日本・中国を除く)

連結従業員数

28,200名

グループ会社数

34社

連結売上高

2,249億円

※日本のグループ会社数には、単体が含まれます。
※地域別売上高は、顧客の所在地を基礎とし、
国または地域に分類しています。

※1：古河電気工業(株)単体、連結子会社111社
および持分法適用関連会社15社の合計

※2：顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類

グループ概要はこちら⇒

<https://www.furukawa.co.jp/company/group/japan.html>





本社 東京都千代田区大手町2丁目6番4号(常盤橋タワー)

事業所 7拠点 (千葉事業所 / 日光事業所 / 平塚事業所 / 三重事業所 / 横浜事業所 / 銅箔事業部門(日光市) / 羽田事業場)

支社・支店 8拠点 (北海道支社 / 東北支社 / 中部支社 / 関西支社 / 四国支店 / 中国支社 / 九州支社 / 沖縄支店)

研究所 4拠点 (サステナブルテクノロジー研究所 / エレクトロニクス研究所 / フォトニクス研究所 / マテリアル研究所)

4つのコア技術で3つの事業セグメント 国内外に誇るシェアトップクラス製品群

3つの 事業セグメント

- ・インフラ
- ・電装エレクトロニクス
- ・機能製品



ワイヤハーネス
国内トップクラス



光ファイバ・ケーブル
世界トップクラス



ステアリング・ロール・コネクタ
世界 No.1



通信用波長可変光源
世界トップクラス



鉄道車両用
アルカリ蓄電池
国内トップクラス

電装
エレクトロ
ニクス

自動車部品・電池

情報通信
ソリューション

インフラ



海底用電力ケーブル
国内トップクラス

電装
エレクトロニクス
材料



エネルギー
インフラ

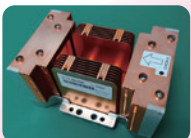


チップインダクタ用
極細平角線
世界 No.1



高性能型低圧アルミ導体
CVケーブル
国内 No.1

機能製品



ヒートパイプ式
ヒートシンク
世界トップクラス



架橋発泡
ポリオレフィン
世界トップクラス



地中埋設用ケーブル保護管
「エフレックス」
国内 No.1



ハードディスクドライブ用
アルミblank材
世界 No.2

製品の詳細はこちら⇒

<https://www.furukawa.co.jp/product/>



古河電工グループの研究開発・新事業創出活動

古河電工グループは、「地球環境を守り」「安全・安心・快適な生活を実現する」ため、情報/エネルギー/モビリティが融合した社会基盤の創出を目指し、研究開発に取り組んでいます。

研究開発活動

当社グループは、国内の当社研究所および海外には、OFS Laboratories, LLC、Furukawa Electric Institute of Technology Ltd. (FETI)、SuperPower Inc.、Silicon Valley Innovation Laboratories, Furukawa Electric (SVIL)等の研究所を有しています。デジタルトランスフォーメーション&イノベーションセンター (DXIC) によりデジタル化を進めるとともに、ソーシャルデザイン統括部によりマーケティング・インキュベーション機能を強化し、積極的に新事業創出活動を推進しています。

海外拠点



OFS Laboratories, LLC
(米国：光ファイバ)



SuperPower Inc.
(米国：超電導)



FETI
(ハンガリー：解析)



SVIL
(米国：オープンイノベーション)

国内拠点



横浜



平塚



平塚



本社



千葉



日光



今市



三重



滋賀

- 研究開発本部
- 企画統括部 (本社・横浜)
- サステナブルテクノロジー研究所 (横浜・平塚)
- エレクトロニクス研究所 (横浜・千葉・平塚・日光・滋賀)
- フォトンクス研究所 (横浜・千葉・平塚・三重)
- マテリアル研究所 (横浜・千葉・平塚・日光・今市)
- 超電導製品部 (日光)
- 知的財産部 (横浜・千葉・平塚・滋賀)
- 戦略本部
- デジタルトランスフォーメーション&イノベーションセンター (本社・横浜)
- 営業統括本部
- ソーシャルデザイン統括部 (本社・横浜・千葉・平塚)



研究開発・新事業創出活動の詳細はこちら⇒
<https://www.furukawa.co.jp/rd/profile/index.html>



ビジョン2030の達成に向けた研究開発・新事業創出活動

Pick up!

社会インフラDXみちてん[®]シリーズ

道路附属物の効率的なメンテナンスを実現する古河電工のデジタル・トランスフォーメーション。独自のデジタル技術を磨き続け、道路管理の課題解決に貢献します。

①走行記録 ②故障解析 ③デジタル画像 (点検実態) の作成

④現場点検・結果記録 ⑤監視業務のデジタル化

⑥点検 ⑦点検

⑧点検

Pick up!

先進核融合原型炉向け高温超電導 (HTS) 線材

世界最初の実機規模を有する高磁場球状トカマク型核融合炉ST80-HTSで用いる高温超電導 (HTS) 線材の供給を始めました。社会課題解決型事業を推進し、持続的なエネルギーの承継に貢献します。

HTS : High-Temperature Superconductivity

©トカマクエナジー社

ST-80マグネットコイルの製造

Pick up!

インフラレーザ[™]

産業用レーザで培った技術を応用した表面処理ソリューションにより、船舶や橋梁などのインフラ構造物の錆取り・塗膜除去などの人体や環境への負荷を軽減し、メンテナンス作業の効率化に貢献します。

インフラレーザラボ 実験スペース



「事業強化と変革」に挑み、
さらに社会に役立つ
企業グループへと成長します。

古河電工グループは、「世紀を超えて培ってきた素材力を核として、絶え間ない技術革新により、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献すること」を基本理念としています。

そして、1884年の創業から今日まで、エネルギー、情報、熱を伝える、繋げる、蓄えることを事業の柱とし、「メタル」、「ポリマー」、「フォトニクス」、「高周波」の4つの技術力を核として、情報通信やエネルギーなどのインフラ分野、自動車部品分野、エレクトロニクス分野へ、多岐にわたる技術・製品・サービスを提供しています。

創業者である古河市兵衛の「従業員を大切にせよ、お客様を大切にせよ、新技術を大切にせよ、そして社会に役立つことをせよ。」という思いを継承し、当社グループの価値観である“Core Value”の体現、すなわち「正々堂々」とした姿勢で、「革新を志向」し、「本質を追究」しながら「主体的・迅速」に、そしてチームで「共創」して事業活動に取り組むことを通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。

不安定な世界情勢のもと、経済活動の低迷が懸念されています。一方で、様々な分野におけるDXの深化は加速しており、SDGs達成やカーボンニュートラル実現に向けた社会からの要請も益々大きくなっています。

当社グループが掲げる「古河電工グループ ビジョン2030」の達成に向けて、社会課題の解決に貢献する新しい技術・製品・サービスを創出し、事業の強化と変革に挑み、ステークホルダーの皆様との信頼をさらに強めて、ご期待に応えてまいります。

代表取締役社長

森平英也

会社概要

商号： 古河電気工業株式会社
社長： 森平 英也
創業： 1884年
設立： 1896年6月25日
資本金： 69,395百万円（2023年3月末）
売上高： 1,066,326百万円（連結）
305,835百万円（単体）（2023年3月期）
従業員数： 51,314名（連結）
4,267名（単体）（2023年3月末）
本社： 〒100-8322
東京都千代田区大手町2丁目6番4号
（常盤橋タワー）

財務状況はこちら⇒

<https://www.furukawa.co.jp/ir/achievements/>



多様性を発揮し、「新しい働き方」を実現するオフィス環境へ

古河電気は、従業員一人ひとりが「新しい働き方」を実現し、多様な人々とのコラボレーションやチーム力の向上を通じて、より高い価値創出に挑戦し続けるため、2021年7月に本社を移転し、オフィスが提供すべき価値をレイアウトに反映しています。



撮影：川澄・小林研二写真事務所

本社オフィスの レイアウト

- 新たな協働・共創を生み出し、発信するコラボレーションスペースの創設
- コミュニケーションを活性化し、チームの力を高める多様なコミュニケーションスペースの設置
- リモート会議に適したWeb 会議スペース・通信機能の充実
- その日の業務や気分に応じて働く場所を選択できる執務スペースのフリーアドレス化
- ストレス軽減・健康促進を重視したリフレッシュスペースの充実

社外からの評価

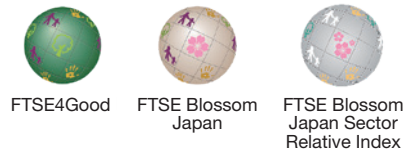
当社のESGに関する指数への組み入れ状況、社外からの評価・認証などについて紹介します。(2022年4月1日から2023年7月31日)

FTSE4Good Index Series / FTSE Blossom Japan Index Series

当社は、FTSE Russellの「FTSE4Good Index Series」および「FTSE Blossom Japan Index Series」の構成銘柄に選定されています。(2023年6月現在)

FTSE4Good Index Series <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

FTSE Blossom Japan Index Series <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>



ESG
指数

MSCI日本株女性活躍指数 (WIN) (※)

当社は、「MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)」の構成銘柄に選定されています。(2023年6月現在)

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index (GenDi J)

当社は、「Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index (GenDi J)」の構成銘柄に選定されています。構成銘柄は、スコア順に5段階のグループに区分されており、当社は上から2つ目の「Group 2」に分類されています。(2022年12月現在)

S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

当社は、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に選定されており、中インパクト産業グループである「資本財」において、十分位数分類「8」、カーボン情報の開示ステータス「開示」、TCFDの枠組み「統合」と評価されています。(2023年6月現在)



ESG
評価・認定

SBT (Science Based Targets)

当社グループの2030年温室効果ガス削減目標は、SBT (1.5°C) に認定されています。(2023年7月現在)



CDP

当社は、2022年に実施されたCDP気候変動において、「A-」の評価を取得しました。また、CDPサプライヤーエンゲージメント評価 (SER) においては、サプライヤーエンゲージメントリーダーボードに選ばれました。(2023年2月現在)



MSCI ESG 格付け (※)

当社は、MSCI ESG 格付け評価において、「BBB」を獲得しています。(2023年4月現在)



(※) 古河電気工業株式会社のMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による古河電気工業株式会社への後援、保証、販促には該当しません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名称およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

イニシアチブ賛同

国連グローバル・コンパクト

当社は、2020年2月24日に国連が提唱するグローバル・コンパクトに署名しました。当社グループは、今後もグローバル企業として、国連グローバル・コンパクト10原則の尊重と実現、SDGsの推進に取り組んでいきます。また、当社は、2020年9月に国連グローバル・コンパクトから国連事務総長に提出された、政府や民間企業のさらなる結束を促す「新たなグローバル協調のためのビジネスリーダーの声明」にも賛同し、署名しました。



気候関連財務情報開示タスクフォース

当社は、2020年1月に気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures) の提言に賛同しました。



持続可能な開発目標 (SDGs)

当社は、国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



詳細は
当社ホームページを
ご覧ください。

<https://furukawaelectric.disclosure.site/ja/themes/109>



「社外からの評価」

「イニシアチブ賛同」

<https://furukawaelectric.disclosure.site/ja/themes/110>



古河電気工業株式会社 <https://www.furukawa.co.jp/>

本 社 〒100-8322 東京都千代田区大手町2丁目6番4号 (常盤橋タワー) TEL. (03) 6281-8500 (代表)



古河電工はジェフユナイテッド市原・千葉を応援しています。

・このカタログの記載内容は2023年8月31日現在のものです。
・このカタログの内容は断りなく変更することがありますのでご了承ください。
・このカタログに記載されている会社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

輸出管理規制について 本書に記載されている製品・技術情報は、我が国の「外国為替及び外国貿易法並びにその関連法令」の適用を受ける場合があります。また、米国輸出管理規則 (EAR: Export Administration Regulations) の適用を受ける場合があります。本書に記載されている製品・技術情報を輸出および再輸出する場合は、お客様の責任および費用負担において、必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては、経済産業省 または 米国商務省へお問い合わせください。